

[月刊]

キャッチ ピース

月刊トマ喰い虫改題

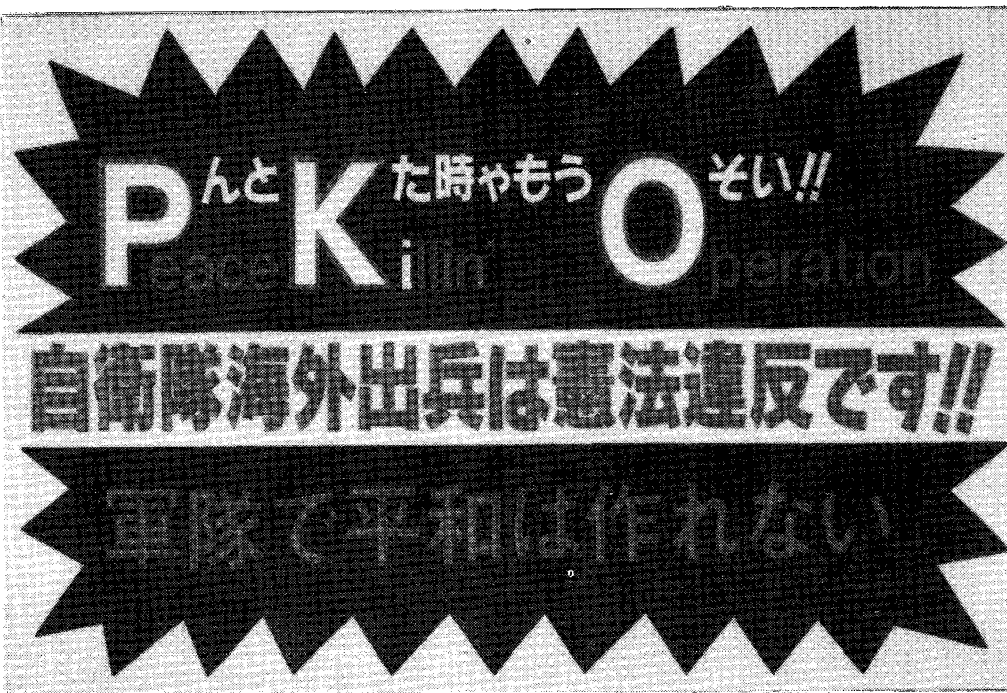
3

通巻82号

1992.10

定価●100円

自衛隊の海外派兵を食い止め、大幅軍縮を！
米軍基地を撤去しよう！
反核運動を継続し、核廃絶を！
憲法9条を世界に！
市民による平和政策を提起しよう！
草の根の国際共同作業をすすめよう！



キャッチピース全国会議
11/22→23ヒロシマ

市民の軍縮プランを/93防衛予算批判
諦めるなんてできない-ヨコスカから
反PKO現場ルポ(小牧・大久保)

★維持会員(月間)

個人 1口 1000円

団体 1口 2000円

★参加会員(月間)

個人 1口 500円

団体 1口 1000円

★通信会員

年間 3000円

脱軍備ネットワーク

キャッチピース

<会費は本紙購読料をふくみます>

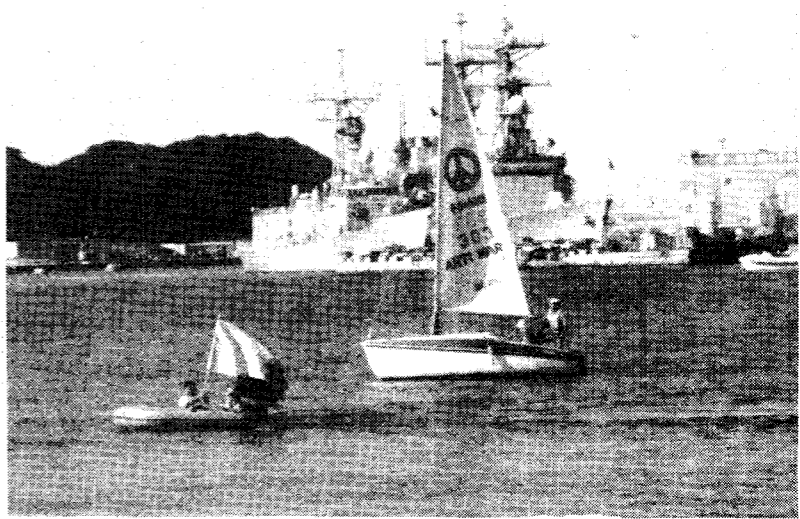
あなたも会員・読者に!

連絡事務所●〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1

TEL 045(563)5101

FAX 045(563)9907

郵便振替●東京6-136148 口座名「キャッチピース」



横須賀で(写真・今井明)

自衛隊に注目あつまる

横田基地はこの頃静かだ。滑走路の一部で工事がつついている。
今日現在(十月二日)米空母インデペンデンスの艦載機による夜間訓練は、まだ始まっていない。そんなわけで、基地を眺めることにヒマができた。ヒマな時は考え事をする。
今、人々の目は、PKOに派兵された自衛隊に注がれている。いや、注目させられている。マスコミは、PKO法案の開始した今年の春以来、実に巧みに、自衛隊の宣伝キャンペーンを積み重ねている。その中で、良くも悪くも人々と自衛隊の距離が近くなったことも間違いない。と同時に自衛隊の実態もまた以前より少しはあるが、明らかに変わった。施設団が工兵隊だなんて、多分ほとんど

の人は今回知ったにちがいない。テレビの画面の中の自衛隊が以外にオジンが多い、若いやつがすくないなあなんて、初めて感想を言っている人もいるだろう。自衛隊の深刻な人手不足も知られるようになった。と同時にアノンペンでのパレードに鉄砲持って、各国の派遣の軍隊と行進している自衛隊に「軍隊」を強く感じた人だって多いはずだ。

多分、自衛隊が一九五四年に発足して以来、最大の注目を集めているのではないか。一九五四年、私は小学校に入学した。その年以來、私が漢字を一つ一つ覚えたように、自衛隊は着々と辛抱強く、実績を築いてきた。その年以來、自衛隊は一度として予算の削減はない。そして四兆円を越す国防予算にまでなっているのだ。国家予算の六%をゆうに越しているのが現実だ。不況の中の海外派兵。膨大な軍事費。この現実がいやでも、人々の前に明らかにされつつある。

アメリカの大統領選挙の結果が出る時期になった。民主党のクリントンが勝ったら、アメリカの太平洋戦略は大きく変わるといわれている。アメリカは巨大な財政赤字の中で、海外基地の縮小をせざるをえないはずだ。その一方で、日本への負担の強化もさらに増すことになるだろう。

遠藤洋一 本気で考えてみませんか?

福生市民連合・市議員

市民の軍縮プラン

だから軍縮プラン

こうした日本や世界の変化の中、「市民の軍縮プラン」の大胆な提案が必要なきときだ。米軍基地と自衛隊のない未来を作る、地道な努力が積み重ねられ、結果を期待できる計画が必要だ。それは同時に、例えば二〇〇一年実現をめざすような具体的な計画だ。

しかし、米軍基地を縮小し、自衛隊の削減を提案するときにも立ちあはだかる議論がある。例えば、米軍基地返還・平和利用をいう前にまず「安保粉砕」をいうべきである、というふうな。たとえば、自衛隊の「削減」を口にすれば、それは自衛隊を「容認」していることだとの批判。そして、「軍縮」一般は否定しない、「しかし…」と言ったきりというふうな。

「安保粉砕」を声高に言うことでの「決意主義」からの自由を獲得しなければならぬ。安保条約は、確かに国と国との条約だ、廃棄には国会での手続きが必要なのは自明のことだ。それを粉砕するのは、また別の政治の力学が必要なのではないか。あまりに当然で、あまりに当たり前なこの決意主義は、平和運動を束縛してきた。あたかも「安保粉砕」を叫ばなければ平和運動ではないような。

しかし、基地反対の運動を続けてきた私にとっては政治の仕組みや、政府の形態以前の問題として、米軍基地は市民に返還されるべきものであり、基地からの騒音はなくなるべきものなのだ。米軍基地を抱える自治体とその住民は、今、日米安全保障条約と地位協定に発する矛盾と歪みの中にいる。そもそも政府すら「思いやり予算」という地位協定違反の中にいる。たぐさんの無駄と浪費を行っている米軍基地に対する、厳しい監視の目が必要になっている。そして、遊休の基地や施設についての調査や研究、そして跡地利用のプラン作りが待っている。

最低限で最大の権利行使

ややもすると、「反対」一本で歴史を刻んだ私たちの運動にとって、写真製作などは不得意科目に属する。だが、ここはがんばらなければならぬ。多少不得意でも練習すれば何とかなる。

現に原発運動の人たちは、原発の要らぬ次のエネルギー社会への提案をしているのではないか。三十六基の原発を廃炉にした後の世界像を描いていてはいないか。

一九七〇年の安保改訂以来、平和運動はひたすら「安保粉砕」を叫んできた。そのこと

に異論はない。安保はなくなりしなかつた。自動延長の安保に対して、「安保の空洞化」をしようともいつてきた。しかし、だんだん忘れてしまった。また思い出して、具体的な安保の空洞化をめざそう。

そして、自衛隊の削減プランにも元気に出発しよう。一九七〇年代に反戦自衛官が出現したとき、たぐさんの反軍グループができた。そして「自衛隊解体」を掲げ、自衛官のための隊内新聞が発行され、自衛官の内部告発を待ち、また働きかけもした。自衛隊の調査や研究もあった。しかし、そのすべてが継続しているわけではない。

今、PKOの派兵によって自衛隊の実態へのアプローチの好機が来ている。今度は飽きるわけにも、止めるわけにもいかない。

では、何から始めるのか。全国の自治体に散らばった、たぐさんの自衛隊の基地や施設の一つ一つに注目する大胆で、綿密な計画を進めよう。京都の反戦ドタバタ会議の青木君の「ハーフオブション」の各地バージョンが必要だ。各自治体と自衛官の関わりを、市民の目で見よう。

たとえば、あなたの住んでいる市や町からは、去年いったい何人の若者が自衛隊に入隊したのだろうか。たとえば、私の住む福生市は、だれでも読める、公開されている事務報告に

九月三〇日ベロウウッドが佐世保に、十月十日オプライエンが横須賀に母港化された。日本列島に据え付けられた戦争の機械がまた一回り大きく、強くなった。入港の日二つの港では平和船団が海にて抗議行動を展開した

「確めたい
今できること
決して 見ぬふりで
逃げたくない
LaLaLa...
諦めるなんてできない」
(SING LIKE TALKING "La la la")

空は雲一つなく吸い込まれそうに青
青としている。とんびが高く低く吾妻
島の上をヒュルヒュルと風に乗ってい
る。波も静か。

こんな平和な一〇月の休日、「鉄の
悪魔」が静寂を破ってやってくる。
シゲキキャプテンのエンジンボート
に引かれて横須賀港入口へ向かう僕は
ゴムボートの上で空を見上げ、小声で
歌を口づさんで気持ちを奮い起こそう
としていた。

つないだロープを離して、手こぎの
ボートは僕の手にまかされた。うまく

いくかな。グイグイッとパドルで水
をかくと、スイーッスイーッ。楽しく
なって迎いをはしりまわった。速い、
速い。ジャスティス号の芹沢さんと良
一さんが両手で〇印をつくってくれた。
今日は広島からかけつけてくれた顔も
あり、ゴムボートをギイギーやったり、
エンジン船からがんばったり、いやが
うえでもドキドキしてくる。

ついにオプライエンが来た。インデ
イペンデンスのような巨大さはないが、
砲台いくつも見せながら右から左へゆ
っくり進む。オプライエン乗組員や
保安庁職員へ向けて、拡声器での呼び
かけが始まる。

「ここががんばらなくちゃ、何のた
めに来たのかわからなくなっちゃう！」
パドルに力を込めた。しかし、ドスン
と巡視船にぶつかってしまった。「許
可水域を越えますよ」ああ、これ以
上はダメなのか。でも何とかしなくち

や。遠ざかってゆくオプライエンを追
いかけようとバシバシやるのだが、
保安庁のボートが横にいて、うまく進
まない！海に飛び込んで泳いで行きた
い！

今度は着岸し歓迎式典中のオプライ
エンに全員ボートを向ける。僕は制限
区域ギリギリにいると動きがとれない
ので、許可区域内を動きまわって存在
をアピールする作戦をとった。おどろ
いたことに、十五メートル程はあろう、
最大の巡視船が僕のゴムボートにゴー
ーとギアを入れ替えながらついてく
るではないか。不気味なので前後左右、
細切れに動いて逃れようとしていると、
業を煮やしたように「小林さん、もう
七分しかありませんから岸に戻って下
さいー」

手こぎボート九隻、エンジンボート
三隻、二十一名、巡視船等保安庁船約
二〇隻。約二時間におよぶ「鉄の悪魔」
との接近遭遇だった。
岸へ帰る新倉さんのボートはちびっ
こプールのようになり、下着までびし
よびしょ。陸に上がったシゲキキャプ
テンは一入港は止められなかったが、

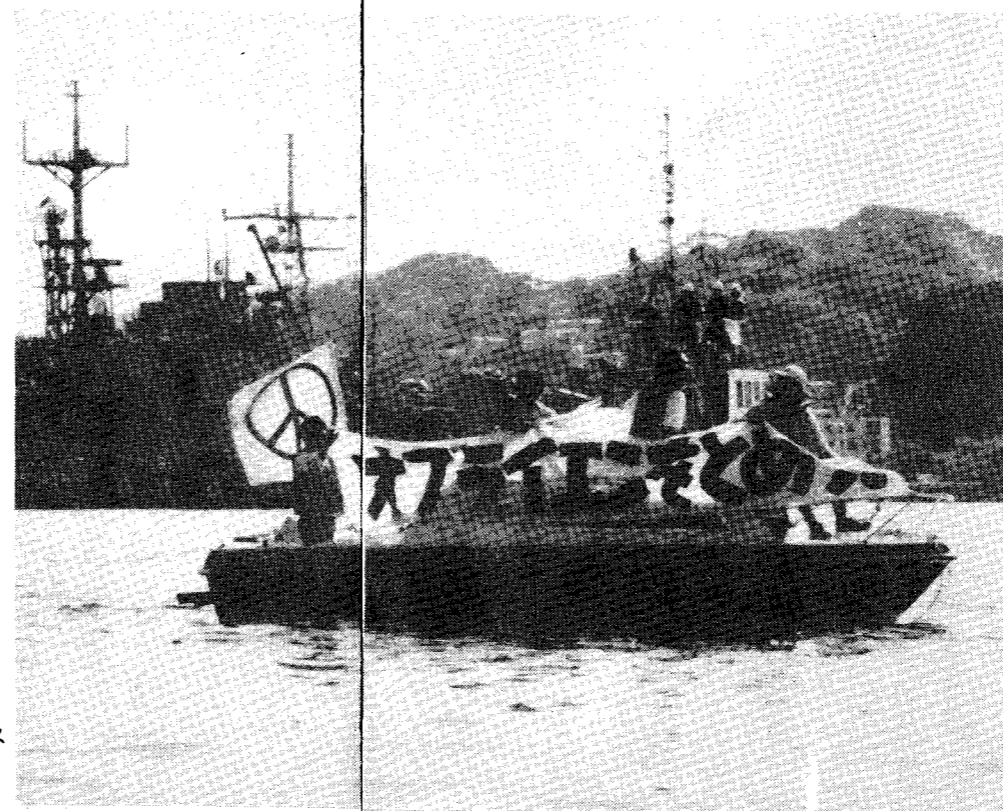
たたかいは続く。抗議行動としては成
功」と語り、みんなで拍手。しかし
「エスペランザ」の清水船長は「ニユ
ースになることは何もできなかったし、
五〇点以下」と厳しい採点を帰りの船
で言っていた。僕は、一〇〇隻の船が
プカプカ浮いているだけで大変なこと
になる、友達を誘い、ボートに乗る人
を増やさなければ！と気持ちを新たに
した。

夕方のデモで僕は歌を歌ってメイ
ストリートを歩いた。

「多分 僕等は
他人事のように
任せっきりで 気取るけれど
ここからの僕は
口笛を吹いて
希望のメロディー
いる褪せたいのちの匂いを
取り戻すために
確めたい
今 できること
まだ 間に合うから
何時かきつと
かなうから
LaLaLa...」

諦めるなんて できない

小林ヒロミツ
横浜



(写真・今井明)

佐世保では

佐世保では、九月二十七日労働組合
主催の集会在四〇〇人を集めて開か
れました。佐世保地区労を中心にした
漁船とゴムボートによる平和船団もデ
ビュー。呉、横須賀の仲間もかけつけ
ともに海上から抗議行動を展開しまし
た。次号に現地レポートを掲載します。
二年前病に倒れ、闘病をつづけてい
る大先輩、佐々木竹一さん(佐世保軍
事問題研究会)も、港の見える高台か
ら監視の目を光らせていました。

(編集部)

冷戦メニューに

国際貢献を追加注文

九三年度防衛予算概算要求に見る

軍事大国日本の構造的欠陥。その

「傾向」と「対策」は？

青木雅彦
反戦下タタ会議・京都

夢でない世界一の軍事大国

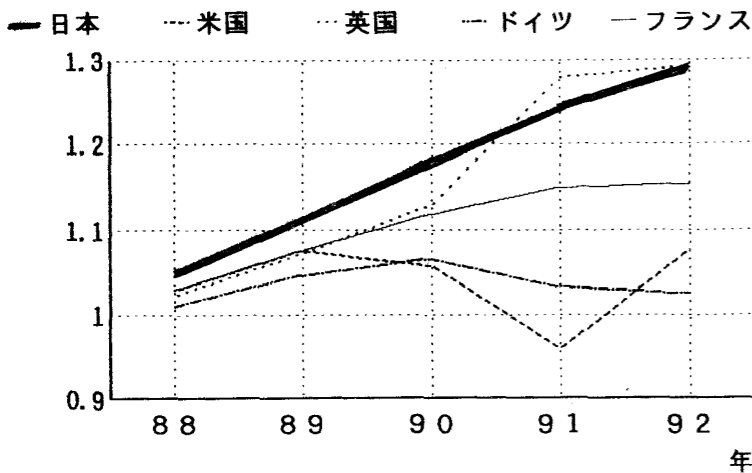
イギリスBBC放送の東京特派員は、今年の九月自衛隊のカーンボジア派遣の第一陣出発のニュースを報道する際、日本人は自衛隊は軍隊でないといっているが今や日本の軍事支出は世界二位である」と皮肉まじりに伝えていた。国際的にも日本の軍事費がロシアのそれを抜いたことは常識になりつつあるようだ。大日本帝国憲法の下で「富国強兵」に動いていた時代にもはるかに手が届かなかった軍事超大国の地位を、この憲法九条下でさしたる反対もなく達成した政府の手腕はおどろくべきものである。しかも日本は島国で防衛すべき地上の国境線もなく、自衛隊は海外駐留軍もまったく持たない比較的小規模な軍隊（兵員は中国の十三分の一）であることを考えると、我々の驚きは深刻な疑問に変わらざるをえない。

ソ連崩壊後の初の防衛庁の概算要求（九三年度）は、四兆

軍縮を拒む「構造」

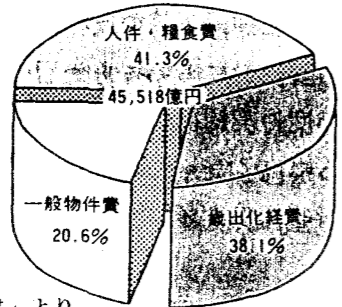
自衛隊にとって、自分たちを育ててくれた冷戦の終結は認めたくないという心理もあるかも知れない。しかし自衛隊の「保守性」はもっと制度的なものに根ざしているとみるべきだろう。戦闘機など「正面装備」と呼ばれる自衛隊の大型兵器は、高価なこと生産に時間を要することからすべて「ローン」（正式には「歳出化経費」と呼んでいる）で支払われる（最長五年）。例えば今年の要求でイージス艦の「頭金」はわずか2%で、残りがローンとなる。こんなやり方はすぐに「借金」で首が回らなくなることは目に見えていた。実際今年の軍事予算でも「

主要国軍事費の伸び比較（87年を1とする）
（数字は防衛白書92年版による）



アメリカの92年軍事費は湾岸戦争費含む

第2-8図 防衛関係費の経費別内訳



92年度版「防衛白書」より

八〇年代軍拡構造の論理と方向性を九〇年代に入って喪失した自衛隊だったが、軍拡の惰性と「湾岸危機」以来の騒動で自衛隊削減から国民の目をそらすことには成功してきた。自衛隊をPKOに参加させてしまったことは確かに平和運動の敗北だともなかった。日本の軍拡を支えてきた「柱」の一つは国民の「無関心と無知」だ。自衛隊の正確な姿を知った人は当然このように自衛隊のありかたに疑問を持つだろう。日本の軍縮の成否は宣伝戦にかかっているのではないか。

軍縮の宣伝戦を

この日本の軍拡は、「日米ガイドライン」（七八年）を受けて八〇年代にレーガン軍拡に便乗する形で兵員ではなくもっぱら装備を拡大することで達成されてきた。そして防衛庁の来年度の「要求」の中身を見ても、冷戦時代とまったく変わらない「おねだり」を依然として続けていることに驚く、一隻で国連本体の年間予算に匹敵するイージス艦（これで四隻目）をはじめ、世界一高価な戦闘機F15（八機）、国内では分解しないと運搬できない大型の九〇式戦車（一台十億を二十三両）湾岸戦争で「面的制圧を可能にした新多連装ロケットシステム（二一億）などなど、どう考えても「出番」がまわってきそうにない冷戦用兵器に多額の投資をする意向だ。

この中で目を引くのが「国際貢献任務」用新輸送艦（一隻五三〇億円）。九〇〇トン級で、搭載能力はこれまでの輸送艦の三倍、垂直離発着機を積めば自衛隊初の空母になる。ただこの派兵用新兵器も、不況下の税収減から高まる大蔵省の削減要求に対して、イージス艦を優先させてこの輸送艦は「いけにえ」とする防衛庁の方針があるという。「国際貢献」より「冷戦対応」を優先させる、というのにも興味深い現象だ。

となると自衛隊が経費を切り詰めるとしたら四割になる人件費に手をつけざるをえない。しかし、人員削減は当然ポストの減少につながる。戦争をしない「軍人」の生きがいは昇進だけだから、制服組がポスト削減につながる定員の見直しに頑強に反対していると伝えられているのも驚くべきことではない。ただ陸上自衛隊は二十年以上定員十八万人のところ十五万しか集められないという状態が続いているのに、なおかつ定員の見直しを行わないという世界の常識からは考えられないことがまかり通っている。冷戦終結・緊縮財政・人手不足、とくれば自衛隊も人員削減に踏み切らざるを得ないはずだったが、来年の予算要求では定員は据え置きである。これもひとえに国民や野党の軍縮圧力の欠如のためか。

気分はまだ冷戦

七〇〇億円。今年の予算より三・六%の増加である。マスコミでは増加率の「低さ」が大きく取り上げられているが、グラフに示したように、最近の日本の軍事費の伸び率は軍事大国中ダントツしかも「安定」している。九〇年代に入って米国の軍事費が減少に転じていることを考えると、日本が「憲法を遵守しつつ」世界一の軍事大国になることもまんざら冗談ではなくなった。

反PKO—現場から①

小牧基地、その朝

本てるこ
K O協力法を廃止に！自衛隊を
海外に出さない市民の声（名古屋）

キャッチピースの読者のみなさんこんにちは。自衛隊の日本航空ジャンボ機による三七八人のカンボジア派遣の当日とその前夜の様子を紙面を頂戴してお知らせします。

十三日、派遣当日の夕刊を読んでも、名鉄電車がストップしたとかどこそこの神社が放火されたとかの記事が大きくあつかわれ、私たち市民の派兵反対の論点や行動はについては、まず報道されませんでした。しかもいっそう残念なことは、三七八人とその見送り家族や送り出す側全員が、基地玄関はおろか基地ゲート前の道路すら通らないで、おそらく

宿舎のない小牧基地に十三日未明にひっそりと入ったことを一切書かなかったことということです。マスコミって本当に権力よりですね。

（1）十二日雨の夜をビニールテントを正面玄関前に張って徹夜の監視行動
行動の順をおって報告します。午後から数人で座り込み開始。機動隊は基地前に一列に盾をもって壁をつくり、市民が道路寄りには居られないように邪魔をしつつ基地を守る格好をつくっている。少しでも私たちが道路に出ると警官がむかってきて、「車があぶないから入って入って」と指示に来る。夜になって人数は数十人になったが、こんなやりとりが深夜二時過ぎまで続いた。まわりは機動隊と私服警官でいっぱい。

私たちのこの座り込みの目的は、派遣される自衛官たちに、「金丸や小沢に国債貢献は語れない。日本企業はカンボジアでの土地買占めをやめろ。自衛隊は金丸や小沢に利用されるな！」などとメッセージを伝え、自衛隊の海外派兵を許さない行為をしめすことだった。しかし、九月二十三日には早朝正面ゲートから入った十二人の派遣ブルーベレーだったが、十三日未明三七八人はここを通らず隠密裏に基地内に入った。CBCの報道マイ

クロバス三台が、緊張した様子で北側に向かったこと、周囲の警備の高まりと安堵の落差で、どうやら基地北部から入ったらしいということがわかった。

私たちはその頃には東京共同行動や地元各地のとびり参加メンバーら約一五〇人になっており、座り込みを中止して、基地北側入り口まで雨のやんだ未明の道路を固まりになって向かい、抗議の意志を示した。基地入りしたとはいえ、あたりは暗いので機動隊は緊張して私たちを押ししてきたが、私たちはハンドマイクを使い、精一杯抗議した。抗議行動を終え正面ゲートに戻ると六時で、もう夜はあけていた。闇の二時間ががすく短く感じられた。

（2）チャーター便ジャンボジェット機は私たちの目の前を飛び立った。

すぐ正面を離れ、この日の集合場所、西山



大久保基地で（写真・今井明）

反PKO—現場から②

3000人が 大久保基地を包囲

津田光太郎
トマホーク阻止
京都連絡会

六月十五日、国会で国連平和維持活動（PKO）協力が強行裁決され、これにもとづく自衛隊派兵の第一弾として、宇治市大久保基地に本部を置く陸上自衛隊中部方面隊第四施設団が決まった。この京都の地からカンボジアに向けて、今、公然と日本の軍隊が出兵するという事態を前に、いてもたってもいられぬ思い——そんな中で、宇治から、この大久保基地を人間の鎖で包囲しようとのよびかけが発せられた。この宇治の「自衛隊の海外派兵に反対する平和実行委員会」の呼びかけを受け、人間の鎖行動を成功させよう、



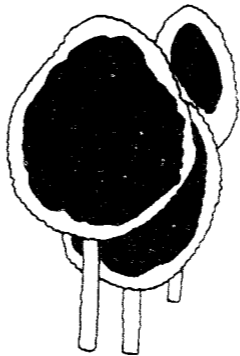
そしてその闘いを通して京都の地から、PKO法の発動を認めない声をあげ、国連への協力という、とりかえしのつかない道を進んでいる日本をとめる抵抗の闘いを出発させようと、九月十五日、京都でも「アジア民衆

（十一ページ上段へ）

神奈川は「大きな基地」だった

「基地はじめてツアー」に参加して

Y・K (ニュークリアフリー・ネット)



JRで横須賀駅に着く寸前に見えた異様な光景がその日の衝撃の第一弾でした。

十月十二日、ニュークリアフリー・ネット主催で「基地ツアー」が行われ、それぞれの思いを持って十五名が参加しました。非核市民宣言運動ヨコスカの広沢氏の案内で、安針塚の丘の上からの見学。不気味な程の静けさを漂わせる横須賀港。二日前には十一隻目の母港艦船、駆逐艦オブライエンが入港したとか。湾岸戦争時には、出撃基地としての機能を果たした事も事実なのです。

● 次の見学地は、逗子市池子米軍住宅建設予定地。なんと山の半分は、グラウンド用に二段に整地されており、現在、山の影に隠れた部分はずでに造成が終わっているとか。遺跡発掘調査を追い掛ける様に山が削られています。今、逗子は市長選、市議補選の前で、富野さんの後を受けて、緑派の女性首長が誕生する事に期待したいものです。案内してくれた逗子市民は「逗子の緑が壊されても、基地を市民の手に取り返すまで」

頑張ります」と。緑が無くなっていく苦悩を市民自治のエネルギーに変えようとしているのがひしひしと伝わりました。決して諦めない事！これが逗子で学んだ事でした。

● 瀬谷はこれといった困いのない広大な土地にあるアンテナ基地。ルーブアンテナが目立つ位で何も無いのが特徴で、基地の端には、近くの農家の耕作が今も細々と続けられています。「上瀬谷基地はいらないウドの会」の富永さんの説明では、周辺住民の中からは返還運動がそれほどなく、休日などはボールで遊ぶ親子もいたり、のんびりムード。ここが横浜市だということをおぼろげに感じている場所との異質さに矛盾を感じて瀬谷を後にしました。

● 午後、相模補給廠と厚木基地を近くのマシヨンの最上階から見学。軍事物資には棺おけも必需品と聞き、その生々しさを想像すると背筋が寒くなるようでした。● キャンプ座間は、植木によってさげられ外から見えない部分が少ない、

直径三Mくらいのバラバラアンテナのある方向から覗いただけ。しかし、ここがかなり重要な基地である事が説明の中で分かり、また、横須賀から車だとかなり掛かるが、ヘリコプターであれば二〇分程度で着くということ。まさに今日一日かけて回ったところは、数分で行き来できる範囲であったのです。それぞれの役割が全部関連施設としてつながっており、これらが一つの大きな基地であると分かりました。

● 神奈川の西側からはるばるこの基地ツアーに参加でき、初めてこの目でその広さと状況を確認し、これから改めて基地問題を考えて見たいと思っただ次第です。

● この基地ツアー中、大和市の久保さんに案内役をしていただきました。お疲れ様！

◆ ※ニュークリアフリー・ネットは「神奈川ネットワーク運動」の主婦たちが、十一月の「国際非核自治体会議」に向けて発足させた運動体です。(編集部)

(三ページから)
とともに！自衛隊の海外派兵を許さない京都共同行動」を結成した。

◆ ◆ ◆
九月二十六日、「人間の鎖」行動に全国の人々との交流会を部落解放センターで催した(「反PKO全国交流会」、参加者は約一四〇名)。全国各地の報告を聞くと、とくに湾岸戦争以降集まったグループが多い。この間、全国各地でぞくぞくと、自衛隊の海外派兵に反対する市民の会議がつけられてきていることを知る。

◆ ◆ ◆
そして九月二十七日、実際、当日まで一体どれほどの人々がこの行動に参加されるかわ

からなかつたけれど、朝十一時すぎには、集会場となった伊勢田消防署南の空き地にはぞくぞくと人が集まりはじめる。電車を乗り継いで、あるいはバスをチャーターして、北は北海道・札幌から南は九州・長崎まで、たがいに声をかけあい、三〇〇〇人に及ぶ人々が、この日ここに集い、宇治大久保駐屯地包囲行動を行った。

◆ ◆ ◆
デモを繰り広げ、「派兵させない」「派兵を拒否しよう」と訴えて、人間の鎖で基地を包囲した。手をつなぎ多いところでは二重になって人があふれた。つないだ手を差しあげ、

あるいは拳で天を突き、シユプレヒコールを繰り返した。私たちは、あとにひけない闘いを出発させた。

◆ ◆ ◆
アジアの人々は、PKOを「ピープル・キリング・オペレーションズ」(人殺し作戦)と呼んでいる。大國の経済優先の世界、新世紀秩序のため、国連の名を借りて発動される人殺しがPKO。それに最大の貢献をしているのが今の日本。この新世界秩序に対して、日本の民衆の抵抗の闘いを創りだそう。

(九ページから)

よれば、一九九一年度自衛官募集事務で、適齢人口男四七二二人・女四一五二人・合計八八七八人中、男五人、女二人の応募があり、入隊者は男三人、女一人だったとある。

◆ ◆ ◆
そして、日本国政府に税金を払っているものの一人として、米軍や自衛隊に使われる一円の金も見逃さずにしつこく追跡する賢い納税者になろう。

◆ ◆ ◆
まず、一人の市民としての最低限にして、最大の権利を行使しよう。そこから……

原子力艦入港情報

(48)

1992年9月16日～10月15日

P級=原子力潜水艦パーミット級
S級=原子力潜水艦ステーション級
L級=原子力潜水艦ロサンゼルス級

- ◆9月24日 16:07原潜トートグ(P級)佐世保に入港。
- ◇ 同日 16:19原潜トートグ(P級)佐世保を出港。
- ◆10月13日 13:49原潜トートグ(P級)横須賀に入港。

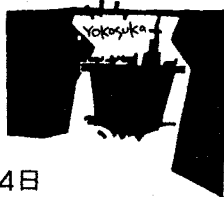
●1992年1月1日から10月15日の各地への原子力艦入港回数

横須賀	15回(うち原潜14回)
佐世保	11回(うち原潜10回)
ホワイトビーチ	4回(うち原潜4回)



NEPA 訴訟資料集 II

—空母の横須賀母港の
違法性を裁く—



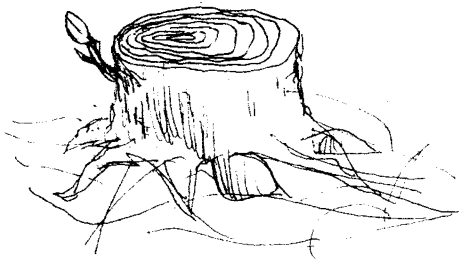
発行日●1992年10月4日
価格●2,000円
発行●NEPAの会
横須賀市鴨居2-14-6 清水方
☎ 0468-41-8202

●表紙の反PKOステッカーの

申し込み先：
自衛隊を海外に出したくない普通寺
市民の会

香川県普通寺市下吉田町91-1
南 佳見 TEL:0877(62)6406

1枚100円



月刊キャッチピース

(月刊トマ喰い虫改題)

No. 3 (通巻82号)

1992年10月20日発行

発行●脱軍備ネットワーク・キャッチピース

発行所●〒223 横浜市港北区箕輪町

3-3-1

☎045(563)5101

FAX 045(563)9907

郵便振替●東京6-136148「キャッチピース」

編集●キャッチピース編集部

定価●100円(通信会員年間3000円)

会計報告

(92. 8. 21~10. 23)

[収入]

○前月からの繰越	52,619
○今月の収入	524,209
会費収入	484,000
内	0
維持団体	125,000
維持個人	48,000
参加団体	76,000
参加個人	235,000
通信会員	40,000
カンパ収入	0
資料収入*	209
預金利子	

[支出]

●今月の支出	393,532
家賃(9, 10月)	80,000
水道光熱費	12,940
電話・FAX費	30,935
郵送費	81,543
文具・備品	6,238
印刷・コピー代	103,346
行動費**	19,350
雑費	1,206
郵便振替等手数料	6,730
●次月への繰越	234,540

* 平和資料協同組合(準)の資料収入は別会計とします。

** 行動収入、経費は原則としてプログラム毎の独立採算となっているため、これにあてはまらない一部の収支のみが経常会計に計上されます。

[注] 半専従者の人件費は有志の特別カンパと平和資料協同組合の準備活動の事業収入でまかなっています。

国際非核自治体会議NGO自主企画

国際討論フォーラム

日本の非核と軍縮を
—市民の課題

アルミニウム輸送、海外派兵、
いまだ吹かない軍縮の風…

第6回非核自治体国際会議
に参加した海外ゲストを囲んで、
日本の反核・平和運動が
直面する課題と
行動指針を語り合います。

11.8(日)

午後1時~5時

会場●神奈川県地域労働文化会館
(地下鉄東横線下車3分)

参加費●1000円(同時通訳あり)

主催 ——— 国際非核自治体会議NGO連絡会
【連絡先】神奈川県地方自治研究センター ☎045(251)9721



強
海行
米外さ
軍派れ
の兵た
強と
化

9.17 呉港
PKO第一陣出港



9.27 大久保基地
ヒューマン・チェーン



9.30 佐世保
ベローウッド配備

呼びかけ

第二回キャッチ・ピース全国会議

とき：92年11月

22日～23日

冷戦の崩壊後、軍縮へ向かうべき時に、日本では「PKO」という名目で自衛隊が外へ出ていき、ベローウッド・オブライエンの配備など米軍の強化が進み、あわせてプルトニウムという核物質が帰ってこようとしています。

キャッチピースも5月、横浜での全国会議で、新たなネットワークとして発足してから半年が経ちました。この間、それぞれの地でPKO法案への反対(5～6月)、PKO法の実動に反対し、カンボジア派兵に反対する行動(7～10月)、在日米軍の強化に反対する行動(9～10月)など休む間もなく、行動に追われてきたと思います。このあたりで立ち止まってじっくり考えることも必要ではないでしょうか。

そこで下記の日程で第二回全国会議を広島で開催します。この半年間の各地での取り組みを報告しあい、交流し、刺激しあい、次の方向を出しあいましょう。

ところ：広島労働会館（広島）

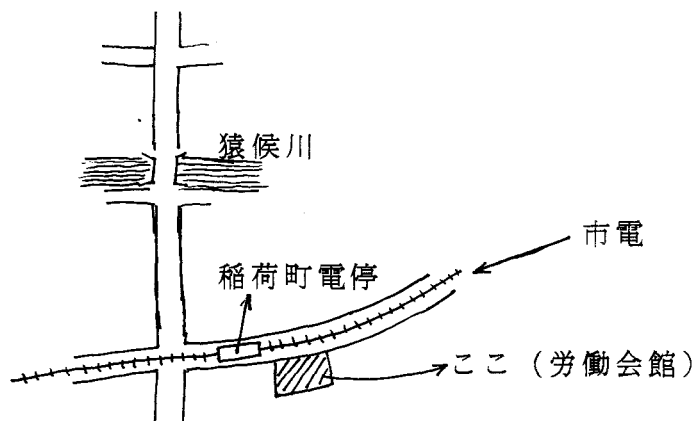
広島市南区金屋町1-17 ☎082-261-9255

※広島駅より徒歩で南へ向かって10分

九州方面←

広島駅

→大阪方面



日程:

11月22日

14:00 受け付け開始

15:00 開会
自己紹介など

16:00~18:00 キャッチピース経過報告
各コーディネーター

運動・各地報告

首都圏、横須賀、名古屋、京都、関西(神戸)
呉・広島、善通寺、佐世保、九州、沖縄など

18:00~19:00 (夕食)

19:00~21:30 発題と自由討論

① 在日米軍の現状と課題

② 自衛隊の軍縮

③ 核兵器問題の現状

21:30~ 交流会



11月23日

9:00~11:00 討論①

ネットワークの拡大

平和資料協同組合

当面の活動方針

11:20~12:30 討論②

運営

財政

その他

12:30~ まとめ

13:00 閉会

参加要領:

参加費: 2000円

宿泊費: 4500円(朝食付き)

宿泊の関係で申し込みは11月15までに下記の連絡先へお願いします

連絡先: ピースリンク広島・呉・岩国
広島市西区小河内町1-13-3

☎082-292-5845